

平成 25 年度 京都市都心部商業集積に係る調査検討業務 第二回京都市商業集積活性化会議録 (作成：ランドブレイン㈱)	
日時	平成 25 年 11 月 15 日 (金) 15:00~17:00
場所	第五長谷ビル 4 階貸会議室
出席者	委員 土井委員長、池垣委員、石川委員、宇津委員、河島委員、小原委員、 中野委員、福富委員、堀部委員、森本委員、山本委員、米田委員 (以上、12 名) (欠席 1 名) オブザーバー 白須局長 事務局 商業振興課 小山課長、小林係長、佐々木 ランドブレイン㈱ …入江、西村
議題	(1) 都心部商業集積追加調査の報告 (2) 都心部地域商業集積の活性化策
◇前回欠席委員挨拶	
河島委員	・同志社大学で、経済、文化を専門にしている。
小原委員	・三条で、海外からやってきた人にも楽しめるエンターテイメントを提供したいと考え、演劇公演等を実施している。外国の観光都市に行くと夜楽しめるエンターテイメントが必ずあり、京都でもそのようなものが必要と感じている。
森本委員	・大学では人間工学を専門としている。ここ数年は障がい者支援について研究している。障がい者支援やユニバーサルデザイン等というと、ハード的な対応のことに捉えられがちだが、今後はコミュニティで支援する発想が必要と考えている。
堀部委員	・四条繁栄会の理事長をしている。
◇資料説明	(1) 都心部商業集積追加調査の報告
事務局 (小林、入江)	(資料 1 の説明)
◇協議	(1) 都心部商業集積追加調査の報告
土井委員長	・資料 1 について事務局より説明をいただいた。データが大量で、すぐに咀嚼しにくい部分もあるかと思うが、今報告があった資料についてご意見いただければと思う。
森本委員	・来街者ヒアリング調査結果で、四条通りを歩いておられる方で、「まちなかの情報がわかりにくい」といった声が多かったということだが、どういう情報がないということなのか。
事務局 (入江)	・まず、四条通と三条通では来街者の質が全く異なっていた。四条通については、遠方から来られる方も多かったが、三条通については京都市内、あるいは近くにお住まいの方がかなり多かった。四条通で「まちなかの情報がわかりにくい」といった声が多かったのは、土地勘がないということだと思う。同じ答えを選択した人でも、三条通の方は、「目あてのお店がない」といった意味合いもあるかと思う。
森本委員	・遠くから来られる方は、事前に都心部のお店の情報を調べてから来るといった感じではないのだろうか。あるいは、情報の見せ方をかえてほしいという

	ことなのか。街中のサインは大分改善されていると思うが。どこに何があるのか分からない、というのはどのようなことなのだろうか。
土井委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>私の感想を述べさせていただくと、こうしたニーズ調査は、回答者が日頃から少し思っていることを選んでしまう傾向にある。本当にその場所に対して望んでいるのかどうかは、調査結果だけではわからないところがあり、読み方を注意する必要がある。例えば、コミュニティバスが欲しいですかという質問に対しては、「欲しい」という回答が多い結果になるが、本当に求められているかどうかについて、ずれが生じることがある。もう少し回答者の属性等から分析をしないと、読み間違えをしてしまう可能性がある。そういう意味では、調査結果について、もう少し分析をした方がよい。</li> </ul>
事務局（入江）	<ul style="list-style-type: none"> <li>森本委員からいただいたご質問にお答えできる分析がまだできていない。</li> </ul>
森本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>三条通を歩いている方は回遊するが、四条通を歩いている方は回遊しない傾向があるという結果がでたのか？</li> </ul>
事務局（入江）	<ul style="list-style-type: none"> <li>四条通に来られている方は、ダイレクトに目的地に行く傾向がある。例えば、直接百貨店に行き、そのまま他のところには行かずに帰られる等。</li> </ul>
森本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>四条通から、回遊してもらえようような方法を提案する必要があるということか。もしそうであれば、それに関係するようなアイデアは調査中に聞けなかったのだろうか。</li> </ul>
事務局（入江）	<ul style="list-style-type: none"> <li>回遊していただくためのアイデアについては、この後説明させていただく。</li> </ul>
土井委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料1については、次回委員にまたみていただくことになるのだろうか。分析の仕方等、今意見を言っておかないと機会はもうないのか。ゆっくり資料をみていただいて、様々な視点を各委員から出していただいた方がいいかと思う。</li> <li>資料1のp9に記載のある、パーソントリップ調査の分析について、私の専門分野なので少しコメントをさせていただくと、どういう手段を使って都心部に来ているのかを分析できるとよい。例えば、百貨店に行き、次にどこに行くか等、トリップのチェーンを分析できるとよいと思う。できたら女性・男性、年齢等で、行動のあり方を分析しておくとういう人がどういう動きをしているのかが見えてくる。回遊性に関連しては、広い範囲で行動をされている方はどういう方か等、分析していただくといいと思う。</li> <li>では、次の活性化の方策についても議論する時間をたくさんとりたいので、事務局より資料の説明をして下さい。</li> </ul>
◇資料説明	<b>(2) 都心部地域商業集積の活性化策</b>
事務局（小林、入江）	(資料2について説明)
◇協議	<b>(2) 都心部地域商業集積の活性化策</b>
土井委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料2のp6までについてご意見をいただきたい。</li> </ul>
河島委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回休んでいたのですがどのような議論があったかわからないが、都心部の回遊性を向上させるためには道が狭くて非常に歩きにくい。京都市内の異なる部局間の問題になると思うが、回遊性を向上させたいのであれば、歩きやすくすることは必要ではないか。現在は京都市外から来る人も、自家用車で都心部へと入ってくる。自転車も通っていて歩く人が不利な道路の状況になっている。なるべくまちなか街路に人を誘導したいと思っても現状では歩きにくい。烏丸、河原町もすごい勢いで自転車が通ったりして危険を感じる。その点が改善されないといくら回遊性の向上といっても実現しないのでは。</li> </ul>
土井委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめてご意見をいただいて、後ほど事務局からコメントをいただきたいと思う。他にご意見はないだろうか。</li> </ul>

掘部委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 四条通の状況についてお話をさせていただくと、固定資産税が非常に高く、払いきれないお店は現在出てきており、今後も出てくると思われる。そうした状況が続くと、ナショナルチェーン化、空きテナント化が進み、苦勞してここで商売を続けようという人が少なくなるのではないかと思う。</li> <li>・ 一つの問題は、空きテナントになる時も、お店が新たに入る時も、全て終わってしまっからしか情報がでない。事前にお店がなくなるとか、入るとかいった情報がわからない。これまで商店街と不動産業者と連携することはなかったが、ある程度そうした人達の知恵も借りながらやっていかないといけないかもしれない。銀行の路面部分のスペースの商業化を進めていくことは必要だと思う。悩みはたくさんあるが考えていかなければならないという気持ちはある。</li> <li>・ 京都商店連盟中京東支部にはいくつか商店街があるが、いくつかの組織それぞれが方針を持っている中、都心部全部でさらに同じ方針を打ち出してやっていくということになると大変なことになるので、都心部の中でも各エリアの特色を出してそれぞれやっていってほしいという風なのがいいと思う。</li> </ul>
土井委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ p2の目標に関する文章だが、「10年後から20年後」と記載されていることで、誤解を少し生むような気がする。取り組むのは今すぐにも取り組むけれども、10年後にも20年後にも役に立つようなものにしていきましょうという趣旨が伝わるようにしてほしい。中長期的な目標を持った上で、今から取り組んでいく、という風にした方がいいのでは。</li> </ul>
森本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料2のp3に表があり、ターゲットとして地域住民、京都市民、京都ファンが位置づけてある。これらがp5の方向性のどれに対応しているのか、ということが分かった方がいいのでは。</li> <li>・ また、5つの方向性はよいのだが、京都市ならではの方向性と言えるものが何か1つでもできないかと思う。例えば、京都には大学がたくさんあるので、常に全大学と連携してやっていく等。具体的に、京都市ならではの取組みがあると分かりやすいかと思う。これらの方向性が歴史都市である京都にあてはまるかなという気もする。</li> </ul>
石川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話を真剣に聞けば聞くほど、この会議は何だったかということを確認しながらお話ししないといけないなと感じている。</li> <li>・ お話を聞きながら、北山通の話を思い出した。私の先輩に話を聞いたところでは、オーダースーツのショップの「オンリー」が出店したことをきっかけに、北山通は「お洒落なまち」としてスタートした。その後、シブス、ビームス等が出店し、一時北山にみんな行くようになっていた。しかし、そうした時期が一定あった後、徐々に洒落なショップは都心部等に戻っていくようになった。北山がお洒落なまちになったのは、一瞬の盛り上がりだった。今の若い世代の人は、北山を「お洒落なまち」としては評価していないところがある。</li> <li>・ 何が言いたいかというと、世代や男女比等により、様々な回遊動線がまちの中にあると思う。そのあたりを上手に把握した上で、都心部で何か取り組めたらと思う。京都は他の地方都市に比べてそこを把握するのが難しい。他の地方都市の観光やショッピングの回遊動線は、一定しぼられている。そもそも店等の数が少ないので、例えば30代が休みの日に行くところは大体しぼられている。そこを見据えた上で将来的な商店街の活性化やまちづくりが図れるといいと思う。</li> </ul>
土井委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ では、事務局の方から今のご意見をふまえて付け加える点等や回答をお願いします。</li> </ul>
事務局（小林）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 河島先生からいただいた回遊性、人が歩くときに歩きやすいようにというご意見については、おっしゃるとおりかと思う。京都市でも「歩くまち」の取</li> </ul>

	<p>組みをしている。歩く人が多くなると、逆に車もゆっくりになるということもあるのかと思う。どちらが先かということはあるが。</p>
事務局（課長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森本先生から p5 の方向性が、他の都市でも使えるようなものに少し見えるといったご指摘があったかと思う。その点については、こうした方向性があるということを確認した上で、では特に京都ではどうなのかを掘り下げていかなければならないと思っている。京都ではどうなのかという具体的なものを検討していきたいと思う。</li> </ul>
白須局長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想も含めて、p6 の図と関連した、都心部の大きな話としては次のことがあると考えている。</li> <li>・一つは、ストリート、道の話である。</li> <li>・二つ目は商店街をどうするかという話。これはうまく民間の人と協力しながらやっていく必要があると考えている。</li> <li>・三つ目は、京都市の取組みとして市役所の建て替えをどのようにしていくか。活性化という観点で意見をいただければ今後取り入れていきたいと考えている。</li> <li>・四つ目は、現在丸太町にある NHK の都心部への移転。内容を聞いていると、新しい映像施設も考えているようなので、その情報を仕入れながら都心部の活性化との連携を考えていきたい。</li> <li>・五つ目は立誠小学校。ここをどう活かすかも大きな課題である。</li> <li>・六つ目は、都心部にある3つの公園をどう活かすか。3つのうち、新京極公園は、他の2つの公園が地域住民のための公園という性格であるのに対し、都心部を利用する人々のための場所といった性格があると思う。うまく活性化のために活用していきたい。</li> <li>・七つ目は、小原さんの手がけておられるアートコンプレックスのような建物があることで、まちの雰囲気も違ってくる。ああいったものがいくつかあると、まちがにぎやかになってくる。京都市としてできることと、民間ができること、両方をイメージしていきたい。まちなかに拠点になるものがあれば、活性化していくと思う。</li> <li>・また、交通の面では、私は御池地下街の取締役にもなっているのだが、そこで一番問題になっているのは駐車場である。御池通の地下の駐車場は、千台のキャパシティがあるが空いている。一方、都心部には時間貸しの小さな駐車場がまちなかにあり、細い道にも車が入ってくることで、歩きにくいまちになっている。京都市が、都心部への車での来街を歓迎していない中、御池駐車場をどのようにしていくのかは大きな課題。この委員会で、御池駐車場の活用も考えていただけるとありがたいと思う。</li> <li>・また、この委員会で検討していく取組みについては、他の局の施策にも影響を与えていきたいと考えている。</li> </ul>
土井委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に具体的な話を局長よりいただいた。理念的な話と具体的な話をうまく結びつけていけないといけないと思う。</li> <li>・では、これまでの話に補足した方がいいこと等、山本委員よりお話しいただければと思う。河島委員のご意見にあった「歩くまち」と今回の検討内容との関係についても、白須局長がいらっしゃる間に報告いただいた方がよいかと思う。</li> </ul>
山本部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業活性化の施策については、庁内で関係部局が集まって会合を持っている。部長職が兼職になっており「歩くまち」の施策も報告するようにしている。部門ごとがバラバラになっている訳ではないので、全庁的な枠組みの中でやっていける仕組みになっている。他局の分については及ばないということはないと考えている。</li> </ul>
土井委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・では資料2の続き、p7以降を説明して下さい。</li> </ul>

事務局（小林）	<ul style="list-style-type: none"> <li>山本部長のご説明にさらに補足をさせていただくと、今回の調査の内容は、関係各課と会議を設けてフィードバックしている。そのような場を設けることで、他局のことだから、都心部のことだけれども関係ないといったことが全庁的にないようにしている。</li> <li>（資料2 p7以降を説明）</li> </ul>
土井委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料2の p7以降について事務局より説明をいただいた。資料の内容についてご意見をいただきたい。</li> </ul>
米田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料2の p6の図面は、都心部というエリアを百貨店の売り場として見ると、どこに何を配置しようかといった趣旨のものだと思う。高島屋だと1日5万人が来店するが、そうして来た人にどう店内を回ってもらうかを考える。歩いていった先に目的になるものを配置し、そこに行くまでの通路をきれいに演出する。</li> <li>そう考えると、都心部の現状では、柳馬場通では車がよく通っており通行上危なそうで北上できない。いいお店があっても、知っている人は行くけど知らない人は行かないといった状況を作り出してしまっている。</li> <li>百貨店だと、目的の場所までの通路がきれいでないといけない。そこに行くまでをどうするか。歩道に電柱があって歩きにくい等といった風ではだめ。そういう部分がきれいになって、その先に面白そうであれば人が行く。通だけ電柱の地中化をして綺麗にしたり、交通規制をしたり等だけではだめ。縦横にエリア内を動いてもらわないといけないので、その環境を整えて、新しいお店を誘致することが重要。</li> </ul>
土井委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>今のお話に触発されて私の意見も申し上げたい。百貨店では、お客様に歩いていただくため、距離と高さを克服する必要がある。そのために、階段とエスカレーターとエレベーターを設置している。ところが、都心部のようにまちなかになると、階段（道路）やエスカレーター（バス）はあるものの、エレベーター（鉄軌道）に該当するものが弱い。回遊性の向上という意味ではきちんと歩ける空間を整備していくということが重要であり、それをサポートするエスカレーターやエレベーターが必要となる。いきなり800m歩かされるのは苦痛なので、回遊を引き出すための目印になるもの、例えば公園だったり、アートコンプレックスだったり、美術館だったり博物館だったりといったものが整備されたり、情報提供されていることが重要になる。</li> </ul>
米田委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>四条通の北側に、壁面に山鉾のデザインをあしらっている建物がある。確か富小路通あたりの大和証券のビルだったと思う。横（東西）の壁面はいい演出をしているのに、縦（南北）の壁面は無愛想なデザインで残念だった。表通だけを綺麗にするのではなく、縦の通にも演出をしないと、まちなか街路にまで人は入ってこない。</li> </ul>
小原委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>私の取組みを少し説明させていただければと思う。三条通は近代建築がたくさんある通りなので、勝手に三条通境界の近代建築マップを作った。GPS エンターテイメントという iPhone のアプリをつくって、近代建築を回ってゲームもできるという仕掛けを作っている。</li> <li>大阪や横浜では、近代建築は景観的にも都市の財産であるということで、ライトアップに対して自治体が補助金を出している。回遊性を高めるという意味でも、近代建築のようないくつかの場所をつなげる方法はよいかと思う。</li> <li>ここにしかないもの、京都にしかないものといった視点では、観光客の方々にも楽しんでいただける舞台公演をやっている。公演を続けていて、かなり観光客の方で来ていただく方が増えていると感じている。</li> <li>韓国のソウルでは、まちなかで NANTA のロングラン公演が行われているのだが、ソウルの観光客の約12%がその公演を訪れているというデータもある。どこの観光都市でも、夜にショーがみれないような観光都市はないと思う。</li> </ul>

	<p>残念ながら、日本には健全に楽しめる夜のエンターテインメントがない。そうした問題意識から取組みをはじめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この調査への提言としては、都心部地域の名前をつけたらいいと思う。例えば、原宿の「ウラハラ」や大阪の「堀江」のように、エリアの名前がブランド化していくと思うので、京都市でもそれが必要ではないか。「田の字地区」等の呼び名もあるが、まちなかスクエア等色々考えられないだろうか。</li> </ul>
森本委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>私もエリアの名前をつけるのは大賛成である。新しい名前をつけて、キャッチフレーズにしたらどうか。</li> </ul>
事務局（小林）	<ul style="list-style-type: none"> <li>都心部の事業者様へとヒアリングをしていく中で、行政はもっと意欲的な取組みを発信してくれという声もあった。行政の具体的な取組みも現在検討している。この委員会でも、行政の取組みとして、こんなことをやってくれたらということも話していただければと思う。</li> </ul>
土井委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>そうした趣旨もふまえて他にご意見はないだろうか。</li> </ul>
石川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>小原さんの取組みについてお聞きしたいのだが、現在公演されている舞台はどのくらいのキャパシティで、どのくらいの稼働率なのだろうか。また、来られている方の、地域の方と観光客の比率はどうなのだろうか。</li> </ul>
小原委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>客席のキャパシティは100席で、金土日に公演を行っている。これまで450回くらい公演をしている。ブロードウェイのように、京都でも2つ3つそういう場所ができたらいいなと考えている。</li> </ul>
石川委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>私も京都の夜にそうしたエンターテインメントができるのは賛成である。北区の劇研さんとそういう話をしたことがある。今公演をされていて、ニーズはありそうなのだろうか。</li> </ul>
小原委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>韓国では観光客の10%の人が公演を見に来るとのことなので、日本でもマーケットとしては拡大し得る、産業になり得ると考えている。</li> <li>沖縄等では、カジノ等の話がでていますが、京都でカジノはないだろう。文化的な、エンターテインメント系のものは京都にあってもいいと思う。</li> </ul>
福富委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>話が五月雨になってしまうかもしれないが、調査についていくつかお聞きしたい。</li> <li>まず一つ目は、パーソントリップ調査について。資料1と資料2の内容をつなげる話は、回遊性の話になりそうなので、パーソントリップ調査で把握される内容が、回遊性の話になりそうなのかをお聞きしたい。また、どういう調査をされるのか。既に公表されるデータを加工されるのであれば、平成22年までしかデータがない中、それ以降のまちの動きをどう把握されるのか。</li> <li>二つ目は資料2に位置づけのある「京都ファン」等、今いない人は分析対象にできるのか。分析対象にできる技術があるのかどうか。</li> <li>三つ目は資料1のP17「来街者対象アンケート調査」の結果をみると、何を目的にこられているのかが見事に分散する結果となっている。調査結果を見ていて違和感があるのは、「はみだし看板があるから歩きにくい」などは、選択肢になければ選ばれていたのかどうか分からないと思うがいかがか。「閉店時間が早い」等も、来街目的によって感じ方が異なってくるので、そのあたりの分析もあればいいと思う。</li> <li>四つ目は、住んでいる方を重要なターゲットにされているが、その方々にとって、通りのカラー等は本当に認識・評価されているのか。また、そうしたことはわかるものなのか。作り手・提供している人の考えているカラーが本当に消費者に認識されているのか。</li> <li>色々意見は申し上げたが、追加調査等必要であれば、学生はたくさんいるので、保険や事故が起こった時の対応があれば調査に参戦できる。おっしゃっていただければ協力する。</li> </ul>

土井委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パーソントリップ調査については、私の専門分野なので、お答えすると、この調査は近畿圏全体を対象に調査するものである。あくまでも交通の調査なので、意識の調査ではない。実際の行動だけを聞くことになる。ゾーンが小さくなるとサンプル数も小さくなるのであやしいところもあるかもしれないが、大きな傾向はみることができる。</li> </ul>
事務局（入江）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パーソントリップ調査のデータは、細かなエリアで見れるのは中京区までになる。</li> </ul>
土井委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 郵便番号等で、エリアに分けることはできると思うが。細かなデータが手に入るかは調整してほしい。</li> </ul>
福富委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 三条通を実際に調査して、女性が多い等は傾向が現れていて面白い結果が出たと思う。</li> </ul>
事務局（入江）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 精度が高い調査ではないが、概ねの傾向はみることができると思う。</li> </ul>
福富委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 得たサンプルが、そこを歩いている歩行者の代表になるということであれば、十分特徴がでていそうだと思う。</li> </ul>
事務局（入江）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各調査の流れを申し上げると、パーソントリップ調査でまず大きな行動の状況を見る、さらに来街者調査で実際にどのような行動をしているのかを把握する、次にインターネットアンケート調査で来ていない人の意識も含めてみるといった流れ。</li> </ul>
中野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ それなりに検討された結果がこの資料になっているのかと思うが、長期間の動向を見た上でのものではないと思う。5年、10年の推移をみていないとわからないと思う。もうちょっと長期間の調査があった方がいいかなと思う。</li> </ul>
土井委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ では、各委員の方にご意見をいただきたい。</li> </ul>
池垣委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私は都心部（田の字地区）のちょっと下（南）に暮らしている立場で参加している。</li> <li>・ 遠くから来られた人にとっては、確かに通が分かりにくいように思う。夷川通では、サインをわかりやくかわいいものになっている。現在、都心部の御池通から四条通までは普通の京都市のサインしかない。</li> <li>・ 京都の人はこんな風に暮らしている、ということアピールした方がよそから来た人にとっては新鮮にうつる。こういう風に暮らしているということアピールした方が楽しい。例えば、私が住んでいる近所では、古い町家にチーズ屋さんが合ったり、タクシーの運転手さんもわからないような奥にある店等が増えている。観光に来る人はそういう場所に出会ったり、行ったりする密かな楽しみを持ってきている。そういうことを大切にすることも大事。</li> <li>・ 大丸近辺にドラッグストアがたくさんできてきて、どのようにまちが今後変わっていくのかと思うこともある。来る楽しみ、行く楽しみをもっと大切にしてほしい。</li> <li>・ 縦の通が自動車が多く怖い、歩けないということはある。歩くまちにするならある程度改善も必要かと思う。東洞院通では、はみだし看板があり歩けないということは実際にあると思うので。</li> <li>・ 京都市内の商店街では、夜6時以降は閉店して暗いところも多い。それも暮らす人がいるので悪い点とも言い切れない。しかし、観光客への対応を考えると、古いお店では6時以降に店が締まってしまったり、休みの日は閉まったりということがあるので、かえていくこともまた必要かと思う。</li> </ul>
宇津委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 錦市場商店街では、面を大切にしようということをいつも考えている。しかし、色々話をお聞きする中で、点から線を考え直す、これまでと逆の考え方も大事な気がする。</li> <li>・ 錦市場商店街のテナントミックス事業は、10年前にはもうやっていた。一つのスキームができていたが、物件の管理を不動産屋さんに託したことで、</li> </ul>

	<p>ある意味、地価が上がった面もあるが、地価が上がると新しく店をしたい人が限定されてしまう。錦市場商店街の取組みも、今年で10年目に入ったので、また組合のみんなで汗をかこうということで、1軒のお店を組合で預かって、錦らしい、理想のお店をつくらうとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 他の商店街のヒアリングの中で、不動産を貸す方が、店をやっていくより売上げがいいという考え方があった。これが錦で起こっていたら、今の錦はない。400年続いていた錦。点から線、線から面ということをもう一度考える必要がある。面から考えるのはわかるが、商店街の立場としては考えていけないと思っている。地価が上がるといいような気がするが、大変なことでもある。</li> </ul>
土井委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• いろんなデータが揃ってきたので、今日あったことを振り返ってみて、ご意見が新たにあるようなら事務局に伝えてほしい。</li> <li>• この調査のアウトプットの目的は、京都の都心を活性化する、京都市全体を盛り上げるために都心を活性化することである。</li> <li>• 河原町のように、かつては魅力的な繁華街だったのが、今は違うといった商店街はたくさん市内にあると思う。河原町でものを買うということ自体がなくなってきた。河原町のような変化が、京都市全体で増えていっていいのかという意見もあった。</li> <li>• 地価が上がるといいことだけれども、別の物差しも持つことが必要。市役所のできることは、市場ではできない新しい価値を生み出す「場」を作っていくということだと思う。</li> </ul>